

ATI認定 樹護士アーボリスト®第2次審査

エバリュエーター

評価採点票

受験者氏名	NAME (ローマ字記載 姓名)	性別	血液型
電話番号	住所		
携帯電話 緊急連絡先	続柄 ()		
エバリュエーター1 氏名	エバリュエーター2 氏名	日時: DATE / /	
試験会場	住所		

エバリュエーター&受験者 事前確認 重要事項 (この評価採点票は公開されています)

【樹護士アーボリスト試験について】

- ・「樹護士アーボリスト」審査試験は、アーボリストの名を冠するにふさわしい専門職人としての基本的スキルを評価認定するものです。高木管理の現場作業において使用するギア類の適切な取捨選択、フィールド計画と設計、チーム作業の連携と安全、適切なクライミングおよびワークポジショニング、そしてリギング技術の基本スキルについて評価を行い認定します。
- ・この認定のための評価は、得点数だけで合否を決める通常の実技試験とはやや異なり、アーボリストの現場実践に必要な基本的スキルの理解度や修得度を各セクションの試技の総合評価として認定するものです。
- ・受験者はエバリュエーターからの質問や指示ある時は、自らの試技について追加説明したり実技の修正ができなくてはなりません。
- ・実際の現場作業を想定した各セクションでは、アーボリストとしてふさわしい適切な現場仕事の遂行を想定した課題が与えられます。
- ・チャンピオンシップ競技時の採点基準とは異なります。また熟練技術を身につけたレベル認定ではなく、基本に則ったベストプラクティスの遂行を評価認定します。
- ・受験者は必要に応じてエバリュエーターによって指定された者にグラウンドワーカー役として作業の補佐を指示することができます。ただし、指示できる内容はセクション7を参照してください。

【エバリュエーターの役割】

- ・エバリュエーターは受験者に対する質問などを伴って評価を行っていきます。認定評価される内容と課題は事前に細かく提示されています。
- ・受験者に不明な点がないよう、セクション開始事前に質問を受け付けます。
- ・エバリュエーターは、受験者の試技や説明が不十分である場合には、再質問などを行い、それでも改善がされない場合には、該当の項目について「警告」を与え、または各評価項目の可否を評価します。
- ・エバリュエーターは受験者が、事前にこの審査試験の「目的」と「内容」を十分に理解していることを確認します。
- 【警告・失格について各セクション共通】
- ・試験中、必要なPPEを使用していない場合「警告」となります。但し、使用していない理由を説明し、その説明に正当性があるとエバリュエーターが判断した場合「警告」にはなりません。
- ・各セクションごとの「警告」3回で「失格」となります。
- 重要なコールとは、スロー・ヘディック・オンロープ・パークチェック・バウンズチェック・クライミングアップ・クライミングダウン・オープンロープ・スタンドクリアー・オールクリアーです。適宜コールを使用してください。
- ・警告は、その都度樹上の受験者に伝えられ内容を説明します。この間、時間計測は止めます。
- ・致命的なミスまたは試技が未達成な場合は「失格」となります。
- ・実技所要制限時間を越えた場合、「失格」となります。実技所用制限時間は各セクションの明示しています。
- ・その他、警告・失格については各セクションをご覧ください。

【合格について】

- ・各セクションごとに「合格」または「失格」の認定評価を行います。改善が必要な項目と内容をエバリュエーターから伝えられます。
- ・各セクションおよび全体での合格には、70%以上の「Complete」または「Pass」が必要です。
- ・「合格」のセクションについては、1年以内の受験に限り免除されます。ただし、2次試験のセクションごとの免除はありません。
- ・全てのセクションで評価認定に合格した者は、認定「樹護士アーボリスト」の称号を冠して業務遂行にあたることが認められます。

5. ツリー&サイト インスペクション

このセクションでは、樹木作業に臨む際の樹木およびフィールドのインスペクションの理解度を評価認定します。

制限時間 10分

※このセクション5～7は連続して行われます。

【受験者が用意するもの】

- ・インスペクションのための手許メモや、チェックシートの持ち込みは可。(任意)
- ・PPE

【エバリュエーターが事前に準備するもの】

- ・樹木とフィールドの双方のインスペクションを想定します。
- ・会場、天候等の条件によって、写真等を使用した課題提供による試験を行う場合があります。その際は筆記用具を準備します。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは、事前に対象樹木と想定する作業内容を伝えます。 「現場の樹木およびフィールドのインスペクション（精査）を行い説明して下さい。仕事で使用しているチェックシートなどがあればそれを使用して説明することもできます。メモなどを作成しても構いません。」 ・受験者が、次の項目を網羅して樹木と周辺環境の精査をすること求めます。地上及び樹上空間の支障物、主幹や樹冠の様子、樹木全体の構造や安定性、電線などの要素を含みます。	・電気施設や電線の配置などの確認	Complete ・ Incomplete	
	・地上支障物 / 空間支障物の確認 ・樹木とその周辺 危険因子の確認	Complete ・ Incomplete	
	・樹木の構造的特性 / 安定性の確認	Complete ・ Incomplete	
	・クライミングルート安全性の確認	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数 回	セクション合否結果	
	セクション5 このセクションの結果	失 格	合 格

6. ワークプラン

このセクションでは、樹木作業に臨む際のワークプラン構築の適確性を評価認定します。ワークプランの概要をチーム全員に説明して下さい。

制限時間 10分

※このセクション5～7は連続して行われます。

※指定された枝をチーム作業として安全に降ろすことを想定し、リギング作業でのゾーンニング、チーム人数、役割分担、レスキューの役割などについて計画と構想を説明します。（チーム人数は、受験者のワークプランにより、2人もしくは3人とすることが出来る。）

【受験者が用意するもの】

- ・ワークプランのための手許メモや、チェックシートの持ち込みは可。（任意）
- ・PPE

【エバリュエーターが事前に準備するもの】

- ・樹木の一部の枝のリギング作業が想定できるように準備します。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは、事前に対象樹木と想定する作業内容を伝えます。剪定する必要がある枝を想定し、その枝を降ろすことを作業目的として伝えます。 「現場の作業計画の想定を説明して下さい。仕事で使用している作業計画チェックシートなどがあればそれを使用して説明することもできます。メモなどを作成しても構いません。」 ・枝を下ろす際のドロップゾーンやセーフティゾーン、ワークゾーンの指定を含むリギング作業計画を説明できることを評価します。またグラウンドワーカーとの協力連携などチーム作業の想定やレスキューの計画も説明できることを確認します。	グラウンドワーカーと協働連携する作業計画の概要説明		
	・セーフティーゾーン、ドロップゾーン・ワークゾーンのゾーンニングの説明	Complete ・ Incomplete	
	・指定された枝を吊り降ろす計画と手順、必要な作業についての概要の説明	Complete ・ Incomplete	
	・想定するクライマーの登攀ルートについての説明	Complete ・ Incomplete	
	・事故が発生した場合のレスキュー対応に関する説明	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数	回	
	セクション6	このセクションの結果	
		失 格	合 格

7. ワーククライミング（リムウォーク・リギング）

このセクションでは、6.ワークプランに基づき、一連のリギング作業の基本的なスキル、コール等によるコミュニケーション能力、作業の安全性を評価します。
※セクション5～7は連続

受験者

して行われます。

切り離れた枝が地上に到着するまでの制限時間は40分、
地上まで降下し、「オープンロープ」までの制限時間は60分

MRSを用いてクライミングをします。

あらかじめ指定された枝までリムウォークをし、安定したポジショニングでハンドソーを使用して鈴を鳴らします。

リギング指定箇所へ移動しバットタイの設定で指定された枝を吊り降ろす一連の作業を模擬で行います。

樹上に設置したリギングギア類を、安全に地上に降ろします。

クライミングダウンし、オープンロープした段階で試技終了となります。

【受験者が用意するもの】

- ・持参した全てのギアの中からこの作業に必要なギアは全て準備します。
- ・人・物の損傷防止のための処置済ノコギリ。（ノコギリの刃にテープを貼り付ける、刃の付いていないブレードに交換する等）

【エバリュエーターが行う事前準備】

- ・レスキュー用スローライン・レスキューキット
- ・この評価採点においてエバリュエーターが指名した1人もしくは2名は、6.ワークプランに従いグラウンドワーカー役を担います。
- ・リムカットする部分(切断予定箇所)にテープを巻いて表示します。
- ・リムウォークをしてハンドソーの試技をする箇所に鈴を取り付ける。
- ・リギングブロック設置の候補となる場所2箇所にテープを巻き表示します。受験生が自ら判断し選択できるようにします。（どちらも安全にリギングできる可能性がある位置とします。）

【受験者への注意事項】

- ・ローワリングデバイスは受験者がクライミングアップする前に自分で取り付けてください。ただし、ロープを支えることやロープを木に回すことはグラウンドワーカーに指示できます。
- ・この試験では、リングセーバーセッティングを行わないでください。
- ・リギング作業は、長さ2m、重さ約25kgの枝を想定して行われます。（実際の重量と異なる場合があります。）
- ・グラウンドワーカーにスローバッグを投げる指示はできません。
- ・クライミング前にグラウンドワーカーへ、シートベンドまたはクイックヒッチの作成方法を説明してください。
- ・樹上での枝とリギングロープの結束が確認できない場合は、地上で再度ノットの確認をします。
- ・地上からクライミングし、樹上に到達した際はインスペクションを実施してください。
- ・グラウンドワーカーとのコール&レスポンスを含めたコミュニケーションにより円滑・安全に作業を遂行して下さい。
- ・グラウンドワーカーへの指示は具体的にその都度行ってください。
- ・グラウンドワーカー役は、受験者から指示がある場合のみ補助作業（ギアの上げ下ろしや、ローワリングデバイスの操作等が可能）を行います。指示内容に不明な点があれば、グラウンドワーカーは受験者に質問をします。
- ・クライミングロープを使って樹上へ引き上げることでできるギアは、リギング用ロープ1本のみとします。リギングギアを持ってクライミングするか、後からグラウンドワーカーに樹上に送り上げてもらうか選択し、いつでも要請ができます。
- ・受験者は樹上で行う作業の内容について、グラウンドワーカーに適宜作業の説明をします。
- ・リギング作業における枝の吊降ろしで、必要であればタグラインを設置してください。
- ・どのような枝の切り方をするのか、枝の動きの想定も事前に説明しなくてはなりません。グラウンドワーカーに対して、安全で適正な立ち位置やローワリングデバイスの巻き数なども指示し説明します。
- ・タグラインを設置する際は、樹上での結び方や枝の切り方、引く方向やタイミングなどの手順をグラウンドワーカーに指示し説明してください。
- ・実際には枝の切断や枝下ろしの行為は実施しませんが、ローワリングデバイスの操作について説明ができなくてはなりません。
- ・ワークプランの変更は、3回迄認められます。但し、所定時間の範囲内ですべてを終わらせてください。
- ・樹上からギアの回収時、リギングロープ1本に限り、ロープダウンのコールをして意図して落下させることは認められます。
- ・地上への降下をする前に、降りられるだけの長さのロープがあることを確認してから降下してください。
- ・ロープエンドには、ストッパーノットを作成して実行してください。

エバリュエーターが評価する内容と要点	評価項目	C/I	警告
エバリュエーターは、以下の指示と説明をします。 「ワーククライミングの目的は、指定された枝の剪定です。、MRSクライミングにより登攀し、幹から約3m離れた枝先の指定された箇所まで安全にリムウォークをし、ランヤードを使用し安定したポジショニングでハンドソーにより鈴を鳴らします。 次に指定場所へ安全に移動しバットタイによるリギング作業を行う設定を完成させてください。リギングブロックの設置箇所は2箇所から選択できます。必要なギアの樹上への上げ下げ、ローワリングデバイス操作等、グラウンドワーカーへの指示や説明など十分な連携をとり作業を行ってください。リムカット直前までの準備がすべて整ったところで合図をしてください。」 合図があった後、エバリュエーターは以下の質問をします。 「どのような理由でそのリギングブロックの設置箇所を選択しましたか。タグラインを設置した理由(またはしなかった理由)を説明してください。またカッティング方法と枝の動き、グラウンドワーカーへの指示などについて説明してください。」 「カッティングをして枝を地上に降ろすまでの模擬を行ってください。」 「枝を地上に降ろすまでを制限時間40分で行ってください。」 「すべてのリギング用ギアを樹上から降ろし、クライミングダウンしてください。」 「受験者が樹上のギアを回収し、地上ギアの撤収を指示して地上に居ります。クライミングサドルからクライミングロープを外し「オープンロープ」で終了となります。開始からここまでを制限時間60分で行ってください。スローラインは試験開始前の状態に戻してください。」 【警告について】 ・受験者が危険な場合や作業の意図が不明な場合には、エバリュエーターは必要な助言や警告を行います。	・適切なコールが適切なタイミングで行われているか。	Complete ・ Incomplete	
	・ノットチェック（ロープとロープの結束） シートベンドまたはクイックヒッチ ・ノットチェック（枝とリギングロープの結束） ランニングボーラインまたはクロープヒッチ+2 ハーフヒッチ	Complete ・ Incomplete	
	・3mリムウォークし安定した姿勢でタイイン。 制御された姿勢で、指定の箇所から3m先までの間をリムウォークする。	Complete ・ Incomplete	
	・リムウォークした先で安定姿勢を保ち、ハンドソーで指定された箇所（鈴）を鳴らす。	Complete ・ Incomplete	

・一定以上（50cm以上）のスリップは警告の対象となります。 ・適切なランヤードタイインが行われていないときは警告とします。すべての作業時にはランヤードで確保してください。 ・ランヤードがたるんでいたり、適切なポジショニングが完成していない場合は警告となります。 ・ギア他、物を落下させた場合は警告となります。ただし、インジャリーフリーの物はその限りではありません。 （インジャリーフリーとはケガの可能性が極めて低いもので、スローライン・手袋・ハンカチ・セーフティーグラスなど。ペンはインジャリーフリーではない。） ・重要なコールがない場合は3回につき警告1回となります。 - 重要なコールとは、スロー・ヘディック・オンロープ・パークチェック・バウンスチェック・クライミングアップ・クライミングダウン・オープンロープ・スタンドクリアー・オールクリアーです。適切なコールをしてください。 ・地上への降下をする前に、降りられるだけの長さのロープがあることを確認してから降下してください。確認が無い場合警告となります。 ・ロープエンドには、ストッパーノットを作成して実技行ってください。ストッパーノットが無い場合警告となります。 ・適確ではない結びがあつて改善できない場合には、警告となります。 ・作業の目的や意義を説明できない場合は警告となります。 【失格について】 ・グラウンドワーカーに対する適切な説明や指示が不足していたり、受験者またはグラウンドワーカーが著しく危険となる状況では失格となることがあります。 ・過度に危険なスリップやスイングまたはオフロープ状態は失格となります。 ・致命的なミスまたは試技が未達成な場合は「失格」となります。 ・ギアの不足によりクライミングシステムが作成できない場合は、「失格」となります。	・適切な結びとともに最適なバットタイの状態	Complete ・ Incomplete	
	・枝下ろしの際のロフリングデバイスの巻き方の指示指導。	Complete ・ Incomplete	
	・具体的なカッティング方法の説明とグラウンドワーカーに対してリギングロープ他の適切な取り扱いの指示や説明。	Complete ・ Incomplete	
	・ブロックとリギングロープ、その他のギア類を適切に取り扱い、安全で制御された吊り降ろしが設定できていること。	Complete ・ Incomplete	
	・すべてのリギング準備を終えて最適なワークポジショニング姿勢とコールを行い、カッティング模擬を行う。	Complete ・ Incomplete	
	・エバリュエーターからの問いかけに確実な説明ができ試技の要点を理解していること。	Complete ・ Incomplete	
	・いかなるリギングギアも樹上に残すことなく、安全に下降する。地上のリギングギアは撤収の指示を行うこと。	Complete ・ Incomplete	
	警告の回数	回	
	セクション7.	このセクションの結果	
		失 格	合 格